

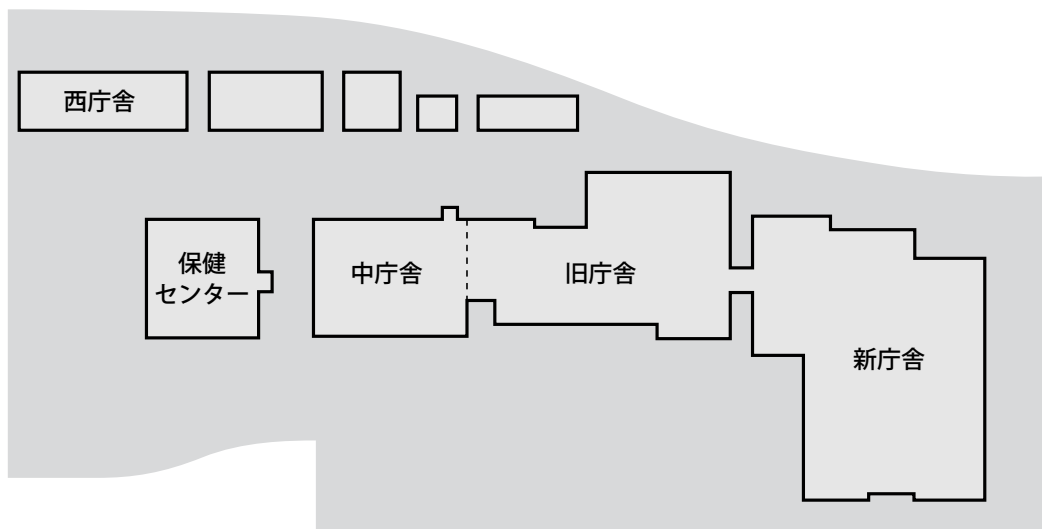
災害に備える - その2 -

市本庁舎の現状については、広報あんなか(平成30年10月1日号)でお伝えしたとおり、旧庁舎では建設から59年が、中庁舎も49年が経過しています。また、両庁舎とも、国の基準である耐震性能を示すI s値(構造耐震指標)は、「非常に低い」(旧庁舎)、「低い」(中庁舎)との診断がなされるなど、危険性が指摘されているため、早急な対応が求められています。

その対応策としては、旧庁舎および中庁舎の大規模改修または両庁舎を取り壊しての建て替え、もしくは新たな場所に庁舎を建設するという3つの方法が考えられます。

大規模改修の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・旧庁舎は59年経過しているため、耐震工事を実施しても、どの程度長寿命化が図られるか不明であり、投資効果が得られない可能性が高い ・仮庁舎に数億円かかる ・来庁者の駐車場確保が必要
取り壊しての建て替えの場合	<ul style="list-style-type: none"> ・仮庁舎に数億円かかる ・来庁者の駐車場の確保が必要
新たな場所へ建設する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の利便性が保てる場所に新たな用地の確保が必要

安中市役所庁舎図



- ① **庁舎の状況について**
旧庁舎および中庁舎の建物の主要部分である基礎や柱などには相当の経年劣化が見られ、現在も雨漏りや壁材の落下が発生しています。また、配水設備や電気設備などの老朽化も進んでおり、旧庁舎では、停電が発生することもあります。
- ② **建物の寿命について**
建物の寿命は、維持管理の善し悪しや地震などによるダメージなどにより大きく変わります。一般的には、鉄筋コンクリート造の場合、50年といわれており、両庁舎ともすでに耐用年数を超過し、もしくは間もなく超過するため、その対策は急務となります。
- ③ **これからの課題**
市では、平成27年度に庁内の担当部署からなる事前準備組織を設け、庁舎に関わる諸問題の検討を行いました。また、県外他市の状況などの視察や、庁舎に関わる経費をまかなうための積み立てを始めました。今後も、市民の皆さまの声を聞きながら庁舎のあり方について考えていきます。